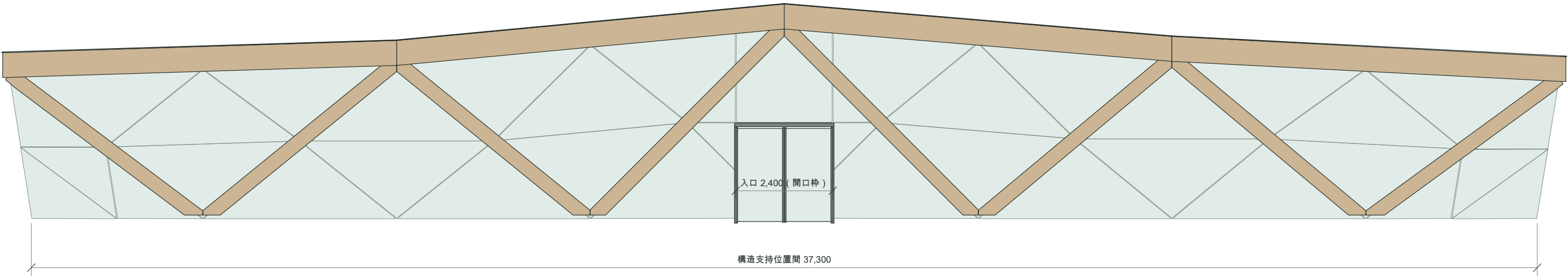


独立した窓の格子を整理

木の主架構に沿う大きな三角形を外皮の基本単位とする。
その内側を小さな三角形の製作単位へ分け、細い押縁で納める。

ガラスは木架構で支持する

ガラスを建物の耐震部材として扱わない。
自重・風圧を受ける支持と、変形を逃がす接点を分ける。



街側ファサード / モデルから投影した検討図 1:100

ガラスと押縁は木材の外側へ。外皮は架構に沿ってわずかに折れ、面ごとの角度を持つ。

01

主架構の線

大きなV字材の軸にガラスの境界を合わせる。
木の構造と別の縦横グリッドを重ねない。

02

製作単位の線

主区画を基本4分割、細い三角形の支持材で受ける。
細分材は65×120、押縁56mmの仮配置。

03

入口の線

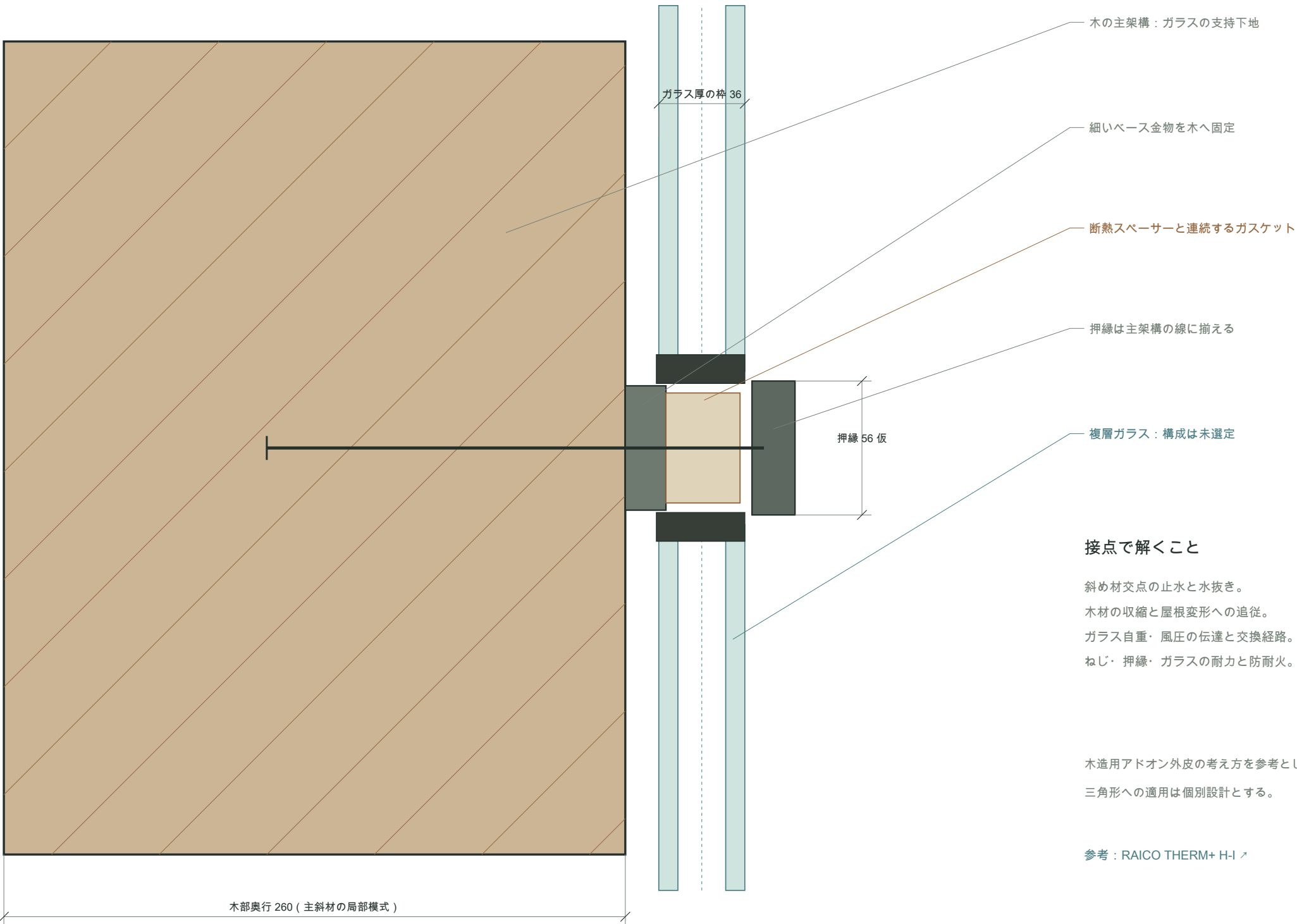
出入りは大きな三角形の中に矩形で確保。
ガラスの傾きは枠まわりの見込みで受ける。

モデル上の最大ガラス区画：約5.17㎡。ガラス構成・支持・運搬・交換方法を照合して割付を確定する。

外皮を外へ移したため、床端・断熱・基礎端部は再調整対象。936㎡は従前の壁芯室区画の集計で、現案の確定面積ではない。

主斜材に直交する局部断面 / 1:2

室内・木架構側 ←→ 外部・ガラス面側



接点で解くこと

斜め材交点の止水と水抜き。
木材の収縮と屋根変形への追従。
ガラス自重・風圧の伝達と交換経路。
ねじ・押縁・ガラスの耐力と防耐火。

木造用アドオン外皮の考え方を参考とし、
三角形への適用は個別設計とする。

参考：RAICO THERM+ H-I

部材・ガラス・金物の寸法は検討用。これはメーカーの認定断面や製作図ではありません。